

## [課程-2]

### 審査の結果の要旨

氏名 村山 洋史

本研究は、地域の専門機関とインフォーマル組織とのネットワーク構築を促進するための社会的認知理論に基づいたプログラムを作成すること、地域包括支援センター職員への試行を通して、そのプログラムの質を検討すること、プログラムに参加した地域包括支援センターの職員の認識や行動、組織の活動の変化を通して、プログラムの有効性を検討することの3点を目的としたものであり、下記の結果を得ている。

1. プログラムの脱落も少なく、参加者のプログラムに対する満足度も高かった。また、プログラム各回の内容評価および目標達成度の評価でも概ね良好な結果であったことから、本プログラムの質は良好であることが示された。
2. プログラム参加者を含む介入群の地域包括支援センターの職員は、対照群の地域包括支援センターの職員に比べ、高齢者クラブに地域包括支援センターの役割や業務内容を伝える頻度が増加していた。
3. プログラム参加者は、同じ地域包括支援センターに所属するプログラムに参加していない職員、およびプログラムが提供されていない地域包括支援センターの職員に比べ、インフォーマル組織とのネットワーク構築があることによる業務のやりやすさの認識、インフォーマル組織とのネットワーク構築に関する知識とスキルが向上していた。また、民生委員の集まりや会議、実施する活動に参加したり、顔を出したりする頻度は減少していたものの、民生委員にケースについての相談や協力を依頼する頻度が増加していた。
4. 介入群の地域包括支援センターが関わりを持つ高齢者クラブの数および割合は、対照群に比べ増加していた。また、介入開始から介入終了後6ヶ月時点までに介入群の地域包括支援センターが高齢者クラブと関わった延べ回数も、対照群に比べ多い傾向が見られた。
5. プログラム修了者へのインタビューにより、プログラムに参加したことで、インフォーマル組織との『ネットワーク構築に対するモチベーションが向上した』、『活動の具体的ヒントを得た』等の効果が見られた。また、所属する地域包括支援センターの他の職員の意識や行動、および民生委員との関係性への波及も見られた。

以上、本論文は、社会的認知理論に基づく地域の専門機関とインフォーマル組織とのネットワーク構築を促進することを目的としたプログラムの作成を試みた点で独創的である。また、地域包括支援センター職員への試行を通して、プログラムの質が良好であることを示し、プログラムの有効性を示唆した。このプログラムを実践で用いることで、地域包括支援センターを含めた地域の専門機関と地域のインフォーマル組織とのネットワークが強固となることが期待でき、地域でリスクを抱えながら暮らす高齢者の早期発見や見守り、および高齢者に対する効果的なケアやサービスの提供につながると考えられる。これは、ひいては高齢者を地域で支えていくための体制整備に寄与することが期待でき、臨床的有用性も高い。従って、学位の授与に値するものと考えられる。